

CASBEE 広島における重点項目の環境配慮設計概要

(仮称)十日市マンション計画

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	1.0	0.10	Q1	室内環境	2	温熱環境
住宅性能評価 省エネ対策等級3を確保。住戸開口部に複層ガラスA12を採用。	3.0	0.42	Q1	室内環境	2.1	室温制御
	3.0	0.48	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制
小計	2.8	0.37				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2.1	自然エネルギーの直接利用
			LR1	エネルギー	2.2	自然エネルギーの変換利用
小計	3.0	0.09				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	5.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化
燃焼系潜熱回収型給湯器を採用。						
小計	5.0	0.18				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4	効率的運用
	3.0	0.03	LR1	エネルギー	4.1	モニタリング
			LR1	エネルギー	4.2	運用管理体制
小計	0.0	0.00				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護
節水型便器、浴室・キッチンには節湯水洗の採用。	3.0	0.12	LR2	資源・マテリアル	1.1	節水
	3.0	0.03	LR2	資源・マテリアル	1.2	雨水利用・雑排水再利用
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	1.2	雨水利用・雑排水再利用
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2.1	材料使用量の削減
	5.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2.2	既存建築躯体等の継続使用
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2.5	持続可能な森林から産出された木材
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み
小計	3.5	0.26				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.9	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮
可能な限りCO2の排出を削減。						
小計	4.9	0.11				
1. 「地球温暖化対策」の推進の評価						
	3.6	0.72				
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出
広島市緑化推進制度の緑化率を確保。	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮
			LR3	敷地外環境	2.1	温熱環境悪化の改善
小計	2.2	0.96				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮
適切な駐車・駐輪スペースを確保。			LR3	敷地外環境	2.3	地域インフラへの負荷抑制
小計	4.0	0.04				
2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価						
	2.3	0.15				
■ 3. 「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2.1	部品・部材の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2.2	部品・部材の耐用年数
住宅性能評価 劣化対策等級3を確保。	3.5	0.47				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性
	4.0	0.17	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3.3	設備の更新性
住戸内給水はさや管工法・排水管のコンクリート埋込なしとし、設備のメンテナンス・更新が可能なレベルを確保する。	3.2	0.53				
小計	3.2	0.53				
3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)						
	3.3	0.13				
■ 重点項目の総平均(上記3項目)						
	3.4					